

タイ語の機能辞 /nâa/ の意味拡張 — 語彙的成分から構文的成分へ —

田中 寛

Semantic Extension of the Functional Word /nâa/ in Thai: From a Vocabulary Component to a Sentence Structural Component

TANAKA Hiroshi

Abstract

The functional word /nâa/ in Thai is one of the most important, high frequency words. Broadly speaking, /nâa/ has two usages, one is a lexiconal usage, one is a grammatical usage. In the former usage, /nâa/ is an affix indicating pleasant, likeable values, creating an adjective by putting it in front of specified verbs. In the latter, /nâa/ is used like an auxiliary verb express what should be. Other grammatical usages include /nâa-ca/ expressing the realization of a program or a schedule, and /mây nâa-ca/ expressing feelings.

[キーワード] 機能辞 語彙的成分 構文的成分 モダリティ 日タイ対照研究

1. はじめに

孤立語に属するタイ語の語彙的特徴については造語的側面においても多くの興味深い現象が見られるものの、いまなお実証的な研究は少ないのが現状である。また、語彙的な特徴から構文的な意味に拡張されるという興味深い現象についても、管見の限り、発展的な議論は見られない。タイ語の /nâa/ は語彙的な成分としての機能と構文的な成分としての機能を有している。本稿ではこの二種類の分化した特徴からそれぞれ、実質的な意味をもたない機能辞の範疇として位置づける¹⁾。

タイ語の語構成において特徴的な現象として分析的であることはよく知られている。これは複数の意味(意義素)が連動、もしくは連結して一定の慣用的な意味を定位せしめることを意味している。文レベルでは結果構文、動詞連動句などにあらわれ

る。一方、その成分が制約を解除され、別の機能を賦与されるという点も顕著である。/nâa/ はそうした造語的機能をもつと同時に、モダリティ機能を有する点で、きわめて特徴的な語彙であるといえる。

考察に当たっては /nâa/ の慣用的な語彙成分を観察し、どのような語彙グループを構成するののかを見てみたい。つぎに /nâa/ の構文レベルの機能として、当為判断をあらわす形式の生起状況を考察する。さらにこの形式がコミュニケーションにどのような効果を与えるかについても、実際の用例を用いながら考察を進める。様態とモダリティとの間にどのような関連性、関係性があるのか、諸例をあげながら考察を進める。なお、タイ語の内省が不十分なため、タイ人インフォーマントの協力を得ているが、それでも限られたデータであることをお断りしておきたい。

2. タイ語における〈言表事態〉と〈言表態度〉

考察の前に、言表事態、言表態度、具体的には語順について確認しておきたい。言表事態とは記述ないし言い表す対象についての事実であり、言表態度とは話し手の主観性、姿勢、認識の在り方を意味する。タイ語文法の記述においては当該事態とその認識に関する明確なフレーム的意義づけは存在しないが、ここでは日本語文法の観点から比較検討していきたい。日本語では〈言表事態→言表態度〉の流れで表され、タイ語ではその逆方向の〈言表態度→言表事態〉の順であらわされる傾向がある。ちなみに日本語で「私は[あなたに{彼が時間があつたらあなたに連絡するだろう}と言った]と(私は)思う」という文は、次のような〈事態〉、〈行為〉、〈認識〉から成っている²⁾。

- | | |
|---|--------|
| (1) a. 彼は時間があつたらあなたに連絡する <u>だろう</u> | : 事態内容 |
| b. 私はあなたに言った | : 伝達行為 |
| c. [私は <u>思う</u> ／ <u>信じている</u>] [<u>かもしれない</u> ／ <u>はずだ</u>] etc. | : 判断認識 |

(1a)の「だろう」は「彼」の予想でもあり、話者「私」の予想でもあるので、(1a)、(1b)という客体事態(世界)を(1c)という主体感情(世界)が包含するといった図である。タイ語では以下のように表される³⁾。

- | | |
|---|--|
| (2) a. thâa khâw mii weelaa khâw kôo ca tittôo kâp khun | |
| もし 彼 ある 時間 彼 も FUT 連絡する と あなた | |
| b. phôm bòok khun | |
| 私 言う あなた | |

- c. phǒm [khít-wâa/chûa-wâa] / [àat-ca/khoŋ-ca]
私 と思う / と信じる だろう / はずだ

タイ語ではまず話し手主体が発話目的にかかわる心情を提示し、次に情報の出どころを出していくという語順をとる。つまり、(1c) → (1b) → (1a) の順に文は構成される。(1b) が (1a) を内包しつつ、その情報を最終的に (1c) が統括する。

以上を念頭に本題の考察に移る。

3. /nâa/ の接辞的意味

/nâa/ は単独では使用されず辞的成分として機能するが、その大きな特徴は(3)のように動詞に前接(前綴)してその動詞の内包する意味のプラスの評価を意味づける点にある。日本語では「Vてよさそうな」といった様態的な評価・価値づけに相当する。

- | | | |
|------------|---|--------------------|
| (3) a. kin | → | nâa-kin |
| 食べる | | 食べてよさそうな (→おいしそうな) |
| b. duu | → | nâa-duu |
| 見る | | 見てよさそうな (→面白そうな) |
| c. rák | → | nâa-rák |
| 愛する | | 愛すべき (→可愛らしい) |
| d. sīadaay | → | nâa-sīadaay |
| 悔しい / 残念な | | 惜しむべき (→もったいない) |

「に値する」「(人に) させる」といった意味が共通して観察される。これは(4)のように同じく動詞に前接する /khii/ がマイナスの評価・価値づけを行うのと対照的である。たとえば、次のような語彙で、「好んで～する」といった高頻度の発生をあらわすという点で共通している⁴⁾。接辞には中心語の前に置かれる〈前綴〉成分と中心語の後ろに置かれる〈後綴〉成分があるが、タイ語の場合は〈前綴〉成分として用いる。いずれも通常、一語的成分としてあつかわれる。

- | | | |
|-------------|---|-----------|
| (4) a. kiat | → | khii-kiat |
| 怠ける | | 怠け者(の) |
| b. maw | → | khii-maw |
| 酔う | | 酔っ払い(の) |

- c. lutuum → khii-lutuum
 忘れる 忘れん坊(の)
- d. nīaw → khii-nīaw
 粘る ケチ(な)

動詞に前接する /nâa/ は(5)のように当該対象の属性、性格などをあらわす。(5a)は形容詞述語文、(5b)は /khon/ に後方からかかる形容詞修飾成分として使用される。

- (5) a. déknɔɔy nâa-rák
 子供 可愛い
- b. pen khon nâa-nápthúuu
 COUP 人 尊敬に値する

以上、動詞に前接して /khii/ が人物の属性（マイナス）評価をさす形容詞として用いられると同時に、「～がり屋」/「～坊」のように人物そのものを指し示す名詞としても機能するのに対し、/nâa/ は属性と同時に事態の様態評価を表すことを確認したが、タイ人はしばしばこの間投詞的な一語文により、コミュニケーションを的確に、かつ円滑にすることも可能となる。ちなみに眼前にある、または話題になっている家屋を /nâa-rák/（「可愛い」）といえ、それは心地よいプラス評価（「素敵」という意味）となり、話題の発展を共鳴・支持することが可能になる。

- (6) a. nâa-kriat nâa-chaɯ
 -- 嫌う -- 怖い
- b. duu dèk khon-níi sì nâataa nâa-kriat nâa-chaɯ cɨncɨɯ
 見る 子 人-この よ 顔 —— 本当に
- c. thammay dèk khon-níi nâa-kriat nâa-chaɯ caɯ
 どうして 子 CL-この —— すごく

(6a) は生まれたばかりの出生児に対して用いる成語的な言い方で、醜いことを表明することで悪魔に攫われないことを祈禱する意味が含まれている。(6b)(6c)のように「くちゃくちゃにしたいくらい可愛くて仕方がない」というように幼児や小動物、人形などを対象に用いられるが、最近ではその用法が拡張されているというインフォーマントの指摘がある。(7)はその一例である。

- (7) yùt klàaw-waaca nâa-kriat-nâa-chaŋ mây rúcak kaalathêet.
止める 話をする 醜い NEG 知る 時と場合
話をやめるのはみっともなくて時と場合をわきまえない。

(7)では時と場合をわきまえずに話を中断することの見苦しさ、非礼な場面をあらわしているが、転移用法のひとつといえよう。

/nâa/が前接する動詞としては前掲(1)のほか、「食べる」「読む」「聞く」「住む」といった、ある種の価値づけを要求するものが大部分で、(8)の語群はその使用頻度が比較的高いものである⁵⁾。反対の評価は否定詞 /mây/ を前に置いて打ち消して用いる。

- | | |
|------------------------|--------------|
| (8) a. nâa-àan | 読んで面白そう |
| b. nâa-faŋ | 聴いてよさそう |
| c. nâa-ʔitchãa | 羨ましい |
| d. nâa-sõŋsãan | 可哀そう |
| e. nâa-thiaw | 旅行して面白そう |
| f. nâa-yùu | 居心地が良い、住みよい |
| g. nâa-klua | 怖い、恐ろしい |
| h. nâa-sõŋsây | 疑わしい |
| i. nâa-tèʔ | 蹴りたくなる |
| j. nâa-khãn | 笑いたくなる、滑稽な |
| k. nâa-khãay-nâa | 恥ずべき |
| l. nâa-khít | 考えるべき |
| m. nâa-sõŋcay | 興味をそそる |
| n. nâa-càpcay | 印象的な、心をとらえた |
| o. nâa-chom | 感嘆すべき、賞讃に値する |
| p. nâa-búaa | 飽き飽きする |
| q. nâa-praláatcay | 不思議な、腑に落ちない |
| r. nâa-sĩadaay | 惜しむべき、残念な |
| s. nâa-ca-pen pay-dâay | 有りうべき、可能性のある |

(8s)のように後述する /nâa-ca/ を用いた慣用的なフレーズもある。このなかにはタイ人の価値観を規定するものもいくつかあり、タイ人の当該事態に対する価値判断の重要な位置を占めているともいえよう⁶⁾。なかでも /nâa-chúua/ 「信じてよさそう」は使用頻度の高い常用語の一つだが、これを打ち消した /mây-nâa-chúua/ 「信じられなさそう」は構文的な機能に拡張される。前文を受けて、その事態、事象が常識を超

えている、想定外の状態を表す。日本語では前文を「なんて」「とは」などで受けるケースが普通である。日本語の「なんて」「だって」「とは」などに相当するタイ語成分は存在せず、小休止をもって感情表示される⁷⁾。

- (9) a. khun Hisaw pen khon-Yiipùn rǔuu, mây-nâa-chúua
 久男さん COPU 日本人 か NEG- 信じるべき
 久男さんが日本人だって、信じられません。
- b. mây-nâa-chúua wâa khâw aaʔyú cètsip léew.
 NEG 信じるべき COMP 彼 年齢 70 PERF
 彼がもう 70 歳だなんて、信じられない。
- c. mây-nâa-chúua wâa tômyamkûŋ mây phèt.
 NEG- 信じるべき と トムヤムクン NEG 辛い
 トムヤムクンが辛くないとは、信じられない。

(9a) のように前件が主題的な内容で、その情報を受けて /mây-nâa-chúua/ で表される場合と、(9b), (9c) のように文頭に /mây nâa-chúua/ を置き、情報の出どころを引用辞 /wâa/ によって表される場合とがある⁸⁾。

4. /nâa/ の文副詞的用法

文頭に置かれる副詞は文副詞として、主観的な感情、評価成分をあらわしながら、文全体を様態修飾する作用がみとめられる。日本語では「悲しみのあまり／あまりの悲しさに」、「不思議なことに」などの「-のあまり／あまりの-に」「-ことに」が典型例として挙げられるが、タイ語でも同様の言い方に /nâa/ が用いられることがある。以下では日本語の「-ことに」文副詞に対応するタイ語表現を瞥見する。

- (10) 驚いたことに、彼女はもうその話を知っていた。
 nâa-tòkcaay thii thəə rúu rúuaŋ-nán yùu léew
 驚くべき COMP 彼女 知る 話 その いる PERF
- (11) 残念なことに、私が訪ねたときにはその人はもう引っ越した後だった
 nâa-siadaay thii tɔn-thii chān pay hāa khāw dāy yáay ʔòok pay léew
 残念な COMP ときに 私 行く 訪ねる 彼 PST 引越す 出ていく PERF

文頭に /pen rúuaŋ/ を添えることがあるが、ややフォーマルなニュアンスとともに、「(べき) ことには」のように主題化の傾きが感じられる。語調をととのえる意味から

も程度副詞 /mâak/ 「大変」が共起することが多い。

- (12) 悔しいことに(は)一点差で A 校とのバスケットの試合に負けてしまった。

pen rûaŋ nâa-sîacay mâak thîi phée kaan-khěŋkhăn bàasakeetboon
COPU 話 残念 大変 COMP 負ける 試合 バスケットボール
kàp roonrian A pay khaʔneen diaw
と 学校 A 行く 点数 一点

- (13) 嬉しいことに、来年カナダに留学できそうだ。

pen rûaŋ nâa-diicay mâak thîi pii-nâa duu-thâa-ca dây
COPU 話 嬉しい 大変 COMP 来年 様子だ 得る
pay rian-tòò thîi kheenaadaa.
行く 進学する で カナダ

「面白いことに／珍しいことに」/nâa-plèekdii thîi/なども、判断評価の文副詞として使用頻度の高いものである。なお、(10)～(13)に用いられる /thîi/ は感情の出どころをあらわすもので、日本語の結果招来（「あなたに会えて嬉しい」など）の動詞テ形に相当する。後文の文末に完了形があらわれることから、気づいた時、実現した時にはすでに予期しなかったことが行われていたことをあらわす点が特徴的である。意外性や失望と言った心情をあらわす語用論的な用法として興味深い。

5. 評価認識のモダリティをあらわす /nâa(-ca)/

本節では /nâa-ca/ が助動詞として動詞句の前に置かれ、事態の当為発生、実現の兆候をあらわす用法を考察する。話し手主体の評価判断、主観的な立場や姿勢をあらわすモダリティ標識の顕著な成分であり、前節でみた語彙的な成分がら構文的な成分に拡張した用法とみなされる。

5.1 /nâa-ca/ が当然、当為をあらわす用法

/nâa/ は動詞の前において「は当然だ」「すべきだ」「のはずだ」という当為、確信の意味を表す。/nâa/ は「はずだ」の意味にほぼ相当する。「当然そうなるべき、にふさわしい、はずである」といった評価判断である。前提条件はタイ語では文章をそのまま置くだけで、接続成分を用いることはない。(14)「こんなに」、(15)「このような」といった指示的な成分が当為を成立させる働きをしている。

- (14) thǎŋfáa khrum yàaŋ-níi fǒn nâa-ca tòk ná.
 空 曇る よう - この 雨 -- 降る 終助詞
 こんなに曇ったら、雨が降るはずですね。
- (15) nǎŋsǔuu bǝep-níi dèk nâa-ca sǒŋcay.
 本 型 - この 子供 -- 興味を持つ
 このような本は子どもが興味をもつべきです。

(15) は内的感情の喚起から「子どもがきっと興味を示すはずだ」という意味で、外的な制約による「べきだ」という強制の意味ではないことに注意しなければならない。

また、日本語と同じように原因・理由の気づき、納得、確認をあらわすことも多い。以下では日本語に対応するタイ語を提示する。(16)は後件に、(17)は前件に用いられる。

- (16) この部屋、寒いねえ。寒いはずだ。窓が開いている。
 hǒŋ-níi nǎaw caŋ na, man kǒŋ nâa-ca nǎaw ròk
 部屋 - この 寒い すごい 終助詞 それ も -- 寒い 全く
 nâatǎaŋ pǝət yùu nĕe.
 窓 開く いる 確かに
- (17) 彼が自慢するはずだ。本当に素晴らしい出来だ。
 kháw kǒŋ nâa-ca phǎumcay nay tuaceŋ ròk tham dǎy yǒt-yíam cŋcŋj.
 彼 も -- 自慢する で 自身 全く する PST 素晴らしい 本当に

(16) では、/nâa-ca/ の前に、前件の内容、たとえば、「窓が開いているのを見つける」、「作品を眺める」といった行為を受け、/kǒŋ/ を併用していること、さらに「全く」「なるほど」というように、確信や納得を支持する /ròk/ も、後文の出現を支える役目を担っている。

5.2 /nâa/ が過去の事実を現在の確認・確信として述べる場合

以上は現前の事態に対する認識判断であったが、過去の、現時点から振り返って完了している事態において確信や確認が自明のものであることを表明する言い方を見よう。完了詞 /léew/ を併用し、思い違い、誤認といったことが発話背景になる。

- (18) おかしなことに、閉めたはずの金庫の鍵が開いていた。
 plèek cŋ kuncce tǔu-sǎŋf thĕi chǎn nâa-ca lóok léew
 珍しい 本当 鍵 金庫 COMP 私 -- ロックする PERF
 klàp pǝət yùu

却って 開く いる

- (19) ちゃんと鞆に入れたはずなのに、家に帰ってみると財布がない。

khít waa tua-eeŋ nâa-ca sây wáy nay kraʔpǎo riapróoy léew
 思う と 自身 -- 入れる おくに 鞆 ちゃんと PERF
 tɛ̀e phoo kláp thũŋ bân praakòt-wâa mây mii kraʔpǎo-saʔtaan
 が と 帰る 着く 家 わかる -と NEG ある 財布

多くは日本語でも「はずなのに」のように意外な展開をあらわすが、タイ語では接続詞 /tɛ̀e/ 「しかし」以下の後文によって現実の状況が示される。同じく(19)の後文にあらわれる /kláp/ 「却って」「反対に」という副詞は日本語には担当成分が存在しないが、タイ語では意外性をあらわす出来の心情を差し出している。なお(19)/praakòt-wâa/ 「ことがわかった」は説明の語りであるが、この発見・認識も当該構文に見られる特徴的な現象である。

5.3 /nâa/ が過去の確認・確信を現時点から想起する場合

日本語では前項の「たはずだ」に対して似て非なる展開に「はずだった」があることは、後文の展開に違いがみられることでもしばしば議論の対象になる。

- (20) a. 彼は来たはずだ → 実際に来た(正認)／来なかった(誤認)
 b. 彼は来るはずだった → 実際には来なかった

「彼は来たはずだ」というとき、絶対的な確信もあれば誤認、思い違いもあり得るのに対して、「彼は来るはずだった」は、明らかに当初の計画が変更になり、実現できなかったことを言外にあらわしたものである。なお、「彼は来たはずだった」は「来たはずだ」を回想的に述べたものである。いずれも現時点での振り返りにもとづく。

- (21) 理論上はうまくいくはずだったが、実際にやってみるとうまくいかなかった。
 thaaŋ-dâan thri-tsadii kôo nâa-ca pay dâi dii
 面では 理論 も -- 行く 出来る いい
 tɛ̀e phoo looy tham duu kláp mây râap-rũun.
 が と 試す する みる 反対に NEG 順調な

(21)は「理論上」と「実際」の事態の対比であるが、(18)でみた /kláp/ 「却って」が事態の対極性をあらわすのに預かっている点にも注意したい。

6. 負性事態の評価認識—— /mây-nâa-ca/ の用法

本節では /nâa-ca/ の否定形式である /mây-nâa-ca/ の用法を詳しくみてみたい。当為事態の打消しは、一定の「後悔」の気分、感情を提示する。

6.1 眼前事実の強い否定

日本語の「はずがない」は眼前の事実を強く否定する言い方であるが、とくに会話場面などにしばしばあらわれる。

(2) 〈場面(1)〉

「田中君、どうしたんだろう。今日はきっと来ると思ったんだけど」

thaanaaka pen aray pay ná

田中 COPU 何 行く 終助詞

núuk-wâa wan-níi khaw ca maa nêε-nêε sǎa-ʔiik

思うと 今日 彼 FUT 来る 確かに てしまう

「田中? 今日は来られるはずがないよ。今、神戸に帰っているだから」

thaanaaka rǔuu wan-níi mây nâa-ca maa dâw ròk

田中 のか 今日 NEG -- 来る 出来る 全く

tɔɔn-níi kláp pay koobee níi-naa

今 帰る 行く 神戸 終助詞

(23) 〈場面(2)〉

「大山さん、暇かな。旅行に誘ってみようか」

khun-Ooyamaa ca wâaŋ rǔuu-pláaw, lɔɔŋ chuan pay thiaw mǎy

大山さん FUT 暇な かどうか 試す 誘う 行く 遊ぶ Q

「彼女は今就職活動中だから暇なはずはないよ」

tɔɔn-níi kháw kamlaŋ hǎa ŋaan yùu mây nâa-ca wâaŋ ròk

今 彼女 ている 探す 仕事 いる NEG -- 暇な 全く

(22), (23)は前掲判断や認識を当該対象の習性、通念に照らして否定する場面で、強い断定をあらわす。日本語では「だから」という原因・理由成分が共起する傾向があるが、上例では /tɔɔn-níi/ 「今は」という以下の成分が事態の肯定性を支持している。

6.2 〈後悔〉をあらわす場合

/mây-nâa-ca/ が実現できなかったことを悔やんだり残念に思ったりする言い方がある。「するんじゃなかった」「しなかったらよかった」という後悔の気持ちを表す。後悔とともに、現状に対する不満も表す。

- (24) こんなはずではなかった。もっとうまくいくと思っていたのに。

mây nâa-ca pen bɛɛp-nii pay dây
NEG -- COPU こんなに 行く 出来る

núik-wâa ca pay dây súay kwâa nii sǎa-ʔiik
と思う FUT 行く 出来る 綺麗により これ てしまう

- (25) 彼が来るはずではなかったのに(どうして来たんだろう)

khǎw mây-naa-ca maa nii-naa
彼 NEG -- 来る 終助詞

- (26) あなたは私たちと一緒にいけばよかったのに。

khun nâa-ca pay kàp raw
あなた -- 行く と 私達

/ca/ を略した /mây nâa/ も同様に用いられるが、/ca/ を用いた場合の方が一般的かつ原理的な、後悔の気持ちがより常態的にあらわされる傾向がある⁹⁾。

- (27) phǎm mây nâa rian phaasǎa-thay lǎy

私 NEG -- 学ぶ タイ語 全く
タイ語なんか勉強するんじゃなかった。

- (28) phǎm mây nâa tɛŋŋaan kàp khǎw lǎy

私 NEG -- 結婚すると 彼 全く
彼女と結婚するんじゃなかった。

- (29) chǎn mây nâa khǎw bɔɔrisát-nii lǎy

私 NEG -- 彼 会社-この 全く
こんな会社に入るんじゃなかった。

なお、「はず」の同じ打消しでも日本語の「はずがない」はタイ語では別の言い方で表されることに注意しなければならない。次の例はいずれも「ということはありません」という意味で、「起こりえない事実」「道理的に存在しない事」を差し出しており、/nâa/ の本来のもつ当為の意義素とは異なっている。

- (30) あの温厚な人がそんなひどいことをするはずがない。

khon-ʔɔɔn-yɔɔn yàaŋ khǎw mây mii thaaŋ tham rútaŋ leewraay
人-温厚な ような 彼 NEG ある 様子 する 事 悪質な
yàaŋ-nán dây
ようにその 出来る

- (31) これは君の部屋にあったんだよ。君が知らないはずはない。

khǒŋ ciŋ-nú yùu thii hōŋ thəə ná
 もの 類この ある に 部屋 君 終助詞
 pen-pay-mây-dây thii thəə ca mây rúu.
 ありえない COMP 君 FUT NEG 知る

7. 〈外発的〉認識と〈内発的〉認識の表出をめぐって

以上、日本語とタイ語の対照研究の視点から /nâa/ の語彙的な用法、およびその機能的拡張として助動詞の用法を考察した。ただし日本語の「はず」がしばしば「べき」と重なりを見せる場合があるので、注意が必要である。次の例は「私も行くはずだったが」という認識は本来は自分が行くべきであった、のように「べき」を用いるところで、「はず」は〈予定〉をあらわしている。タイ語では /khuan-ca/ が用いられる。

- (32) その旅行には、私も行くはずでしたが、結局行けませんでした。

kaan-thōŋthiaw khraŋ-nán ciŋciŋ chǎn kōo khuan-ca dâŋ pay dūay
 旅行 CL その 本当に 私 も べきだ PAST 行く 一緒に
 tēe thāay-thii-sùt kōo pay mâŋ dâŋ.
 が 結局は も 行く NEG 出来る

人間の認識の仕方として、外界世界の観察と同時に、それが内面に投影される認識判断としての表出には相応の懸隔があり、タイ語では二種類を使い分けることが頻繁に行われる。本稿ではその二種類を〈外発的〉認識と〈内発的〉認識と呼ぶことにしたい。この用語については田中（2010）で少し触れたことがあるが、たとえば、

- (33) a. この映画は見る者を感動させずにはおかない。
 b. この映画を見れば（見る者は）感動せずにはいられない。

のような例では (33a) では外発的な、外界からの圧力、制約によって「感動」現象を引き起こすのに対して、(33b) では行為主体者自らの内部からの働き掛けによる自然発生的な「感動」現象と意義づけられる。対象認識には、こうした二方向のとらえかたがあり、モダリティ認識の研究として有効な手法の一つと見なされる。

以下では日本語のタイ語訳を手がかりにその実相を見てみたい。

日本語の当為・義務表現の「べき」はタイ語ではほぼ /khuan(-ca)/ に相当することを述べたが、しばしば /nâa/ であらわされることがある。以下の日本語とその対訳を

参照されたい。

- (34) あんなひどいことを言うべきではなかった。

mây khuan phûut aray run-reen bèep-nán ?òok-pay looy.
NEG -- 話す 何 ひどい CL-それ 出る-行く 全く

この場合の /mây-khuan(-ca)/ は文字通りの「べきではない」だが、もしこれを /nâa(-ca)/ に置き換えた場合は、「言わない方がふさわしかった」のような価値づけの内発的な表現になる。/mây-khuan(-ca)/ が非難がましいのに対して、/mây-nâa(-ca)/ の場合は行為主体に対して、一定の理解を示しながらも同情的に非難している向きがある。「言うのではなかった」のように後悔の念が含意されているとみてよい。さらに、

- (35) 君はやっぱりあのときに留学しておくべきだったよ。

khít léew rúu-sùk wâa thəə nâa-ca pay rian tōo tàaŋ-prathêet
思う PREP 感じる COMP あなた-- 行く 勉強する 続く 外国
sĩa tãŋtêe tōon-nán.
てしまう から あの時

この場合の日本語の「べき」は「当然そうしてしかるべき」という内発的な感情を重視したもので、この /nâa(-ca)/ を /khuan(-ca)/ に置き換えた場合、むしろ外部の圧力によって「当然しなければならなかった」といった、義務の /tōŋ/ に近い意味になり、行為主体の側に立つよりも批判の対象としての忠告の意味を強く帯びることになる。

- (36) 外交政策について議論すべきことは多い。

kiaw-kàp nayó?baay kaan-tàaŋ-prathêet mii rûaŋ thii tōŋ
関する-と 政策 こと-外国 ある 話 COMP must
thòk kan mâak
議論する 互いに 多い

この場合は客観的に見てどうしてもそうする義務があるという意味で助動詞の /tōŋ/ が用いられている。/khuan(-ca)/ よりも強い必然性、制約の意味がある。

- (37) エイズは恐るべき速さで世界中に広まっている。

?èet phréé-kracaay pay thûa-ròok dūay khwaam-rew thii nâa-klua
エイズ 広まる 行く 世界中 で 速さ COMP 恐ろしい

この場合の「恐るべき」は定型化した形容詞で、「べき」本来の意味からは逸脱したものである。タイ語では /nâa-klua/ という /nâa/ による複合形容詞を用いる。

さらに様態をあらわす「そう」はタイ語では基本的には /duu/, /duu-thâa(-ca)/ などと表されるが、しばしば /nâa/ によっても表されることに注目したい。

「ボタンがとれそうだ」「眠れそうだ」などの日本語の「そうだ」は眼前の様態を表すが、タイ語では /tham-thâa(-ca)/, /duu-thâa(wâa)(ca)/, /mii thâa thîi wâa/, あるいは「ほとんどそうなりかける」という意味で /thêp(-ca)/, /kùap(-ca)/, /cuan-cian/ などで表される¹⁰⁾。/thâa/ は「態度」「様子」で /thâa-thaan/ ともいう。「見える」という意味の /duu/ や /tham/ 「する」、/mii/ 「いる、ある」などを併用する。また /kùap/, /thêp/, /cuan-cian/ などは「ほとんど」という極限の程度をあらわす。

- (38) 星が出ているから、明日は天気になりそうだ。

phrûŋ-níi duu-thâa ?aakàat ca dii phró? mii duangdaaw praakòt hây pen
 明日 -- 天気 FUT いい から ある 星 分かる CAUS COPU

- (39) 今日中に原稿が書けそうだ。(実現への接近)

duu-thâa-wâa-ca khîan tôn-cha?bàp dâŋ sèt phaay-nay wan-níi.
 --- 書く 原稿 できる 終わる 以内 今日

- (40) 暑くて死にそうだ。(今にも～そうだ)

róon thêp-ca taay
 暑い --- 死ぬ

- (41) あの古い家はもう少しで倒れそうだ。

bân kâw lâŋ-nán cuan-cian-ca phan
 家 古い CL-それ -- 壊れる

- (42) びっくりして持っていたグラスを落としそうになった。

tòkcay con kùap thamhây kêew thîi thûu wáy tòk
 驚く まで -- CAUS グラス COMP 持つ おく 落ちる

また、「そうにない」は否定詞を前に置いて /mây-mii thâa-wâa/ のようにあらわされる。「そうした気配がない」という意味である。

- (43) この本は売れそうにない。

nâŋsûu lêm-níi mâŋ mii thâa wâa ca khâay dâŋ
 本 CL-この NEG ある 様子 COMP FUT 売る できる

一方、次のような「そうだ」はタイ語では当然の意味が先行し、話し手主体の確信を

あらかずことから、/nâa(-ca)/ が用いられることに注意しなければならない。

(44) 彼女は熱心にパンフレットを見ていたので、誘ったら会員になりそうだ。

phrɔ̃? kháw duu phèen-pháp yàaŋ-sǒm-ʔòk-sǒnca

から 彼女 見る パンフレット 熱心に

thâa chuan kôo nâa-ca saʔmàk pen samaachik

もし 誘う も -- 申し込む COPU 会員

8. おわりに

事態をどう認識し、表現するかはモダリティの領域として、さまざまな序列ないし位相が見られるのは個々の言語の特徴でもある。そこには時間認識、比較対照の認識などが介在するが、可能性、必然性を内在する表現には、常に外発的な要件と内発的な要件とがあり、そのいずれかに重心を置いて述べることは、言語運用の複雑性の一現象でもある。タイ人の思考発想の特徴、鍵概念の一つでもある /nâa/ の内包する語彙的・文法的現象はタイ語のモダリティ、主観性を考察する際にさけてとれない領域である¹⁰⁾。タイ語のモダリティ研究は個別的な句型については、その運用的特徴はおおまかな理解はされているものの、その個別の認識の仕方においてはまだ解明すべき問題が多く残されている。その大きな課題の一つが、認識のグラデーションともいふべき話し手の心情表出、投影の濃淡である。

本稿では日タイ対照研究の立場から /nâa/ の語彙的な成分と構文的成分を記述したが、実際のタイ語の用例をさらに精査する必要がある。とくにもう一つの当為事態をあらわす /khuan/ の用法についてはごく一部しか触れられなかったが、今後は /nâa-ca/ との異同について、もう少しデータを増やして考察していく必要がある。実際の話し言葉、書き言葉の用例についても更なる観察が必要である。同時に /nâa-ca/ の使用される環境、場面についても観察していく必要がある¹¹⁾。様態、義務必然をあらわす用法、勧めや提言をあらわす /dii-kwâa/ 「ほうがいい」などの用法との異同についても今後の課題としたい。

注

- 1) ここでいう機能辞とは、日本語では助動詞的成分、接続句相当成分のことで、複合辞とも呼ばれるものである。中国語では介詞もふくめ〈関連詞〉と称される句型である。
- 2) 「言表事態」「言表態度」という用語、規定はほぼ仁田(2013)などによっている。
- 3) 本稿で用いる主要なグロス(意味素、形態素)は以下の通り。

COPU 繫動詞 FUT 未来時制 PST 過去時制 PERF 完了 NEG 否定辞

CAUS 使役形態素 PAS 受動形態素 CL 類別詞 COMP 補文標識／関係代名詞
Q 文末疑問マーカー

また、タイ語の国際音標文字 (IPA) 表記はほぼ田中 (2004) にしたがう。

- 4) 接辞には中心語の前に置かれる〈前綴〉成分と中心語の後ろに置かれる〈後綴〉成分があるが、タイ語の場合は〈前綴〉成分として用いる。なお、// は人物の属性をあらわす点で限定されるが、/khon (「人」)/ や /dek/ (「子供」) などの人名詞を前置する場合も省略する場合もある。

khii tùun-tên -- / 興奮する → 興奮しがちな人

khon khii-kiat 人 / -- 怠ける → 怠け者

なお、/khii-kiat/ は副詞、動詞として用いて場合もある。

khii-kiat (ca) tham 怠けてしない (副詞的用法)

yàa khii-kiat 怠けるな (名詞的用法)

- 5) 田中 (2019) では /nâa/ の主要な複合語を 53 語挙げている。
6) タイ語の鍵概念については /nâa/ などの接頭辞をはじめ、形容詞語彙など多岐にわたるが、その分類と概念の記述についても別稿を準備中。
7) 本稿の例文は主として以下から採集した。

『どんな時どう使う日本語表現文型 500』アルク 1996

スニーラット・ニャンジャローンスト他訳 泰日経済技術振興協会 2004

『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版 1998

ブッサニー・バンチョンマニー他訳 泰日経済技術振興協会 2008

タイ語例文の適切性判断のチェックについては外語母語話者ピヤトーン・ケウワッタナー氏 (タイ国日本大使館) の協力を得た。記して感謝申し上げる

- 8) 情報の出どころをあらわす引用辞 /wâa/ に対して、後掲用例 (13) にみられる関係詞 /thii/ は感情の出どころをあらわす。/wâa/ は日本語の「と」、/thii/ は日本語の「て」「ことに、ことで」などにほぼ相当する。詳細は田中 (2004) 第Ⅶ部第 3 章「タイ語の連体節と補文節の構造」(pp.621-669) を参照。
9) /nâa(-ca)/ のような句型、機能辞に見られる /ca/ の任意性については /yâak(-ca)/ 「たい」(願望)、/âat(-ca)/ 「だろう」(推量、/khon(-ca)/ などにも観察されるが、その特徴の異同についてはなお十分な考察が必要である
10) こうしたタイ語の認識のモダリティの概略については田中 (2004) 第Ⅵ部第 2 章「タイ語における推量と認識の構文(2)」(pp.519-544) を参照。
11) タイ語の認識のグラデーション、また /nâa(-ca)/ の実例を用いた検証については田中 (2019) を参照されたい。

参考文献

田中寛 (2004) 『統語構造を中心とした日本語とタイ語の対照研究』ひつじ書房

田中寛 (2010) 『複合辞からみた日本語文法の研究』ひつじ書房

田中寛 (2018) 『日タイ対照研究の諸問題』語学教育フォーラム第 33 号 大東文化大学語学教育

研究所

- 田中寛（2019）「タイ語の機能辞 /nāa/ の語彙的機能と構文的機能」『日タイ言語文化研究』第6号・pp.77-100 日タイ言語文化研究所
- 仁田義雄（2016）『文と事態類型を中心に』くろしお出版
- 裴曉睿、薄文澤（2017）《泰語語法》北京大学出版社
- 赤木攻監修、中島マリン・吉川由佳（2004）『間違いだらけのタイ語』めこん
- 富田竹二郎（1990）『タイ日辞典』改訂版 天理・養徳社
- 松山納（1995）『タイ語辞典』大学書林
- Richard Noss *Thai Reference Grammar*, Washington Foreign Service of State 1964
- Shoichi Iwasaki & Oreeya Ingkaphirom *A Reference Grammar of Thai*, Cambridge: Cambridge University Press 2005
- Udom warotomsikkhadik *Thai Syntax: An Outline*, Mouton 1972